

浮世絵と百人一首

2019年1月5日(土) → 4月7日(日)

展示替えがあります。
前期:2月17日(土)まで
後期:2月19日(土)から

入場無料

成立以来、現在に至るまで親しまれつづけている百人一首。今も私たちがカルタで目にするように、和歌のテキストは古くから視覚的なイメージを伴いながら世に広く伝えられてきました。歌仙絵（歌人の肖像）や歌意絵（和歌の内容を描いた絵）などは、かつての宮廷文化や和歌に詠まれた情景をたぐる行為として各時期の絵画様式によって描き継がれています。

江戸期に「浮世絵」というメディアに出会った百人一首は、浮世絵特有の鮮やかな色彩、豊かな物語性、見立てを用いた表現手法と結びつき、イメージの世界を縦横にふくらませてゆきます。このミニ企画展では、百人一首を題材にした浮世絵のなかから、代表的な2つのシリーズを中心に展示します。

葛飾北斎『百人一首うばがゑとき』は、天保6、7年（1835、36）頃に制作された北斎晩年のシリーズです。タイトル「うばがゑとき」は、姥（乳母）が百人一首の内容をわかりやすく説明するという趣旨を示しています。とはいえ北斎は和歌を直接的に絵にするだけでなく、さまざまなアプローチによって歌意を連想させるような描き方をしました。解釈の難しい作品もありますが、鮮やかな色彩やグラデーションをふんだんに用いた丁寧な摺の技術をお楽しみください。

『小倉擬百人一首』は、三人の歌川派絵師—国芳、広重、三代豊国—が作画を分担した100枚揃のシリーズです。弘化2年（1845）から嘉永元年（1848）にかけて制作されたとされ、和

歌の内容と関連する歴史上の人物や歌舞伎、浄瑠璃の一場面が、人気絵師の競演によってバラエティ豊かに描かれています。

江戸後期には、他にも百人一首を題材にした浮世絵が数々出版されました。百人一首物の制作出版は、100枚というボリュームあるシリーズを刊行する制作意欲にあふれた版元や絵師たちが存在した、当時の出版界の力強さをも映し出しているといえるでしょう。

本展では、本の形式で出版された百人一首物もご紹介します。北斎の師、勝川春章が手掛けた『錦百人一首あつま織』は、春章の描く歌仙絵に書家きやま援山周之による文字を組み合わせた絵本で、書道の手本としても相当数流通しました。江戸後期にはりよくていせんりゅう緑亭川柳が『英雄百人一首』や『列女百人一首』などの「異種百人一首」を数々考案し、挿絵では浮世絵師が活躍しました。

江戸の出版を通して、浮世絵と百人一首の織りなす自由なイメージの広がりをお楽しみください。



No. 1-2

※「大判」は寸法を表す規格で、約390×260mm

※No.3-43 以外は当館の収蔵作品です

1

勝川春章 画

猿山周之 書

『錦百人一首あつま織』

安永4年(1775)刊

木版彩色摺絵本

版元：雁金屋清吉・雁金屋義助

1-1	喜撰法師	後期
1-2	小野小町	前期
1-3	蟬丸	前期
1-4	中納言行平	後期
1-5	素性法師	前期
1-6	壬生忠岑	前期
1-7	紀貫之	後期
1-8	壬生忠見	前期
1-9	清原元輔	後期
1-10	権中納言敦忠	前期
1-11	中納言朝忠	後期
1-12	藤原実方朝臣	前期
1-13	右大将道綱母	後期
1-14	儀同三司母	前期
1-15	紫式部	後期
1-16	大式三位	前期
1-17	小式部内侍	後期
1-18	清少納言	後期
1-19	左京大夫道雅	後期
1-20	権中納言定頼	前期
1-21	能因法師	前期
1-22	前権中納言匡房	後期
1-23	崇徳院	前期
1-24	源兼昌	前期
1-25	皇太后宮大夫俊成	前期
1-26	藤原清輔朝臣	後期

1-27	寂蓮法師	後期
1-28	皇嘉門院別当	前期
1-29	二条院讃岐	後期
1-30	鎌倉右大臣	前期
1-31	従二位家隆	後期
1-32	後鳥羽院	後期

2

葛飾北斎

『百人一首うばがゑとき』

天保6、7年(1835、36)頃

大判錦絵 27枚揃

版元：西村屋与八・伊勢屋三次郎

2-1	天智天皇	前期
2-2	持統天皇	後期
2-3	柿本人麿	前期
2-4	山邊の赤人	後期
2-5	猿丸大夫	前期
2-6	中納言家持	後期
2-7	安倍仲麿	前期
2-8	小野の小町	後期
2-9	参議篁	前期
2-10	僧正遍照	後期
2-11	在原業平	前期
2-12	藤原繁行朝臣	後期
2-13	伊勢	前期
2-14	元良親王	後期
2-15	菅家	前期
2-16	貞信公	後期
2-17	源宗于朝臣	前期
2-18	春道列樹	後期
2-19	清原深養父	前期
2-20	文屋朝康	後期

2-21	参儀等	前期
2-22	大中臣能宣朝臣	後期
2-23	藤原義孝	前期
2-24	藤原道信朝臣	後期
2-25	三條院	前期
2-26	大納言経信	後期
2-27	権中納言定家	前期



No. 2-4



No. 2-17

3

歌川国芳・歌川広重・三代歌川豊国

『小倉擬百人一首』

弘化2年～嘉永元年（1845～48）

大判錦絵 100枚揃

版元：伊場屋仙三郎

3-1	国芳	十三	陽成院	前期
3-2	国芳	十四	河原左大臣	前期
3-3	広重	十五	光孝天皇	後期
3-4	国芳	廿二	文屋康秀	前期
3-5	国芳	廿三	大江千里	後期
3-6	国芳	廿五	三條右大臣	前期

3-7	広重	廿七	中納言兼輔	後期
3-8	国芳	廿九	凡河内躬恒	前期
3-9	国芳	三十一	坂上是則	後期
3-10	広重	三十三	紀友則	前期
3-11	国芳	三十四	藤原興風	後期
3-12	国芳	三十八	右近	前期
3-13	広重	四十	平兼盛	後期
3-14	広重	四十五	謙徳公	後期
3-15	広重	四十六	曾弥好忠	後期
3-16	国芳	四十七	恵慶法師	前期
3-17	広重	四十八	源重之	後期
3-18	国芳	五十五	大納言公任	前期
3-19	国芳	五十六	和泉式部	後期
3-20	国芳	五十九	赤染衛門	前期
3-21	国芳	六十一	伊勢大輔	後期
3-22	国芳	六十五	相模	前期
3-23	広重	六十六	前大僧正行尊	後期
3-24	三代 豊国	六十七	周防内侍	前期
3-25	三代 豊国	七十	良暹法師	後期
3-26	広重	七十二	祐子内親王家 紀伊	前期
3-27	三代 豊国	七十四	源敏頼朝臣	後期
3-28	広重	七十五	藤原基俊	前期
3-29	国芳	七十六	法性寺入道 前関白太政大臣	後期
3-30	国芳	七十九	左京太夫頭輔	前期
3-31	三代 豊国	八十	待賢門院堀川	後期
3-32	広重	八十一	後徳大寺左大臣	前期
3-33	国芳	八十二	道因法師	後期
3-34	国芳	八十五	俊恵法師	前期

3-35	三代 豊国	八十六	西行法師	後期
3-36	三代 豊国	八十九	式子内親王	前期
3-37	広重	九十	殷富門院大輔	後期
3-38	国芳	九十一	後京極摂政前 太政大臣	前期
3-39	国芳	九十四	参議雅経	後期
3-40	三代 豊国	九十五	前大僧正慈円	前期
3-41	広重	九十六	入道前太政大臣	後期
3-42	国芳	百大尾	順徳院	前期

★浮世絵玉手箱★ カーテンを開けてみよう！

3-43 広重 九 小野小町(寄託作品) 通期

3-44 広重 九 小野小町 通期



No. 3-3



No. 3-20

4 楊洲周延「千代田の大奥 かるた」

明治 28 年 (1895)

大判錦絵三枚続 版元：福田初次郎

5 『小松百人一首小倉文庫』天保 9 年(1838)刊

墨摺版本 版元：和泉屋市兵衛

6 緑亭川柳 編、歌川貞秀 画

『英雄百人一首』 天保 15 年(1844)刊

墨摺版本 版元：山口屋藤兵衛

7 緑亭川柳 編、葛飾北斎・三代歌川豊国 画

『列女百人一首』 弘化 4 年(1847)刊

墨摺版本 版元：山口屋藤兵衛

8 『花街百人一首』

安政 3 年(1856)刊 墨摺版本

9 松本保居

「百人一首」(『銅版襖帖』より)

天保 10 年 (1839) 銅版画帖

町田ゆかりの作家

畦地梅太郎 (1902-99) コーナー

堂島(新宇和島十景) 1935 年 100×137mm 木版

阿蘇山 1946 年 165×1240mm 木版多色

残雪 1960 年 548×362mm 木版多色

圏谷の残雪 1967 年 405×311mm 木版多色

イベント案内

「復刻浮世絵版木」摺り体験

気軽に Try! 江戸気分!

開催日時：2019 年 2 月 16 日 (土)

①11 時 ②13 時半 ③15 時 各回 50 分

※①、②の回は事前申込制(申込み順)

(申し込み期間：1 月 18 日～2 月 13 日)

※③の回は当日受付(14 時より整理券配布)

対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)

詳しくはチラシまたは当館 HP をご覧ください。